

# 岩屋だよりー2号

2011年(平成23年)6月吉日

よく、初夏の頃の山々をとらえて「山、笑う」という季語があります。

照葉樹林地帯にある長崎では、特にこの時期スダジイの白い花が遠めからもすぐわかり、また独特の蒸れるような臭いを発散させるのが、ちょうど5月上旬のゴールデンウィークの頃です。

しかし、今年は冬の寒さの影響もあってか、やや遅れて5月中旬頃が花の盛りだったようです。これらクヌギの仲間の花々と、クスノキなどの新緑が程よく交わった山々の様子を見て、昔の人は「山、笑う」とは、うまく表現したものです。

長崎北道場の稽古も、水曜日は平日ということもあって、なかなか会員が揃わない中で熱心な会員もあり、週末の土・日曜日とはまた異なった呼吸力の技などを中心にした稽古をしております。

週末は、けっこう稽古に参加する人も多く、いろいろな技の研鑽を行っております。

特に、幼年部は大人の指導体制がしっかりしていることもあって、小学低学年から上は中学生まで、熱心にまた比較的途中でやめずに継続して稽古を続けており、この子どもたちが将来の長崎、はては今まさに大震災で打ちのめされているこの日本をしっかり背負って行って欲しいものです。

そこで、合気道を稽古していく上で、一つ大事なことがあります。それは合気道の稽古は道場に来てからだけではなく、日常生活の中でも武道の稽古をする者として、しっかり自分の生活を律することです。

以前、フィギアスケートのある指導者が言っていました、「リンクの上でいくらきっちり演技ができて、家では部屋が散らかし放題、また行儀が悪い子はあとで伸びない。だから自分はスケートの稽古以外の時間の過ごし方を子ども達に厳しく指導している」と。

これと似たような話で、昨年春と夏の高校野球甲子園大会全国制覇という偉業を成し遂げた沖縄県の興南高校野球部の我喜屋監督もある講演会の場で言われていました。

彼自身、低迷していた同校の野球部に誘われた時に、いろいろ弱い原因を探っていく中で、選手達の日々の生活態度を改めてさせていくことを、厳しい練習と併せて実行して行ったと・・・

それとともに、子ども達の父兄の方にも一つ・・・

筆者が時々檀家としてお参りさせていただき、長崎市伊良木の光源寺（同寺の詳細はHPあり）のご住職が、ある時このような法話をされました。

今の親、特にお母さん達は、子どもにすぐ、テストの点数などの結果を求め、また一方子どもが自分で考えて行動する前にすぐ、取ってやったり与えたりするのでなかなか子どもの自主性が育ちにくいのではなからうか。

もっと見ても見ぬふりをする、そのような親のゆとりが子どもの自我を伸ばしていく上で大切ではなからうか。

よく阿弥陀様や大仏様を見てご覧なさい。目はうっすらとつぶり（でも、決して完全には閉じていない）、耳が大きいのは何故か？

それは、目で見て気付いても閉じたようにして知らないふりをしながら、一方で耳はしっかり立てていて、相談されたりしたら、まずよく話を聞いてやるためのものである。お母さん達の家庭教育にも、このことは通じるのではなからうか。

と、このような趣旨の話だったと思います。

筆者自身の子供はとっくに成人していますが、この話は教訓として活かしながら、ずっと子供の生長を見守っていきたいと思うこの頃です。



大分県くじゅう連山ふもと、湧水で有名な「お池」の少し下流の「名水の滝」

**「清滝や 波にちり込む 青松葉」 松尾 芭蕉**